

川崎市平和館貸出用資料一覧

川崎空襲解説パネル(13枚組)

パネルNo	種別	題名
1	解説	川崎空襲と市民
2	解説図	戦争犠牲者の数
3	解説図	防空組織図
4	解説	川崎空襲の被害
5	解説図	学童疎開地域図
6	解説	学童疎開
7	解説	空襲へのそなえ
8	解説	軍需工場と川崎
9	解説図	川崎の主要軍需工場分布図
10	解説	米軍からみた川崎
11	解説図	爆撃ルート
12	解説図	川崎空襲被災図
13	解説	川崎空襲の記録

川崎空襲写真パネル(Aセット・16枚組)

パネルNo	種別	題名
1	写真	防空訓練(その1) / 防空訓練(その2)
2	写真	防空訓練(その3) / 防火群長の姿
3	写真	建物疎開で強制的に壊された家 / 疎開の荷物を運び出す
4	写真	産業戦士として働く婦人たち / 工場で働く動員学徒
5	写真	昭和電工に「徴用」された人たち / 軍需工場で産業戦士を励ます巡回激励班
6	写真	動員姿の市立高等女学校生徒 / 増産に励む動員女学生
7	写真	学校工場で働く堀之内国民学校生徒
8	写真	B29の爆弾投下 / 三菱石油川崎製油所の被弾
9	写真	三菱石油川崎工場の被害
10	写真	昭和電工硝酸工場の被害 / 日本鑄造白石工場の被害
11	写真	撃墜されたB29の残骸 / 六郷橋付近から多摩川河口方面(焼け跡)
12	写真	京浜川崎駅付近の焼け跡 / 東海道線鉄橋方面をみる
13	写真	市役所付近の焼け跡(現在の平和通り) / 市役所方面をみる
14	写真	渡田1丁目から市役所方面をみる / 富士見公園付近(焼け跡)
15	写真	市内登戸の長念寺に疎開した小田国民学校の児童たち
16	写真	皇紀2600年祝賀行進(川崎市役所前)

川崎空襲写真パネル(Bセット・29枚組)

パネルNo	種別	題名
1	写真	防空訓練に励む市民たち 砂子付近
2	写真	防空訓練
3	写真	防空訓練
4	写真	防火群長の姿
5	写真	建物疎開で強制的に壊された家
6	写真	「疎開」の荷物を運び出す
7	写真	産業戦士として大島授産場で働く婦人たち
8	写真	工場で働く「動員学徒」
9	写真	昭和電工に「徴用」された人たち 硫安を背に記念撮影
10	写真	軍需工場で「産業戦士」を励ます巡回激励班
11	写真	動員姿の市立川崎高等女学校生徒
12	写真	増産に励む動員女学生
13	写真	学校工場で働く 堀内 国民学校生徒
14	写真	「超空の要塞、ボーイングB29の投弾
15	写真	三菱石油被弾の跡(点々とある黒い丸が、爆弾の落ちた跡であろう)(昭和20年8月28日 米軍撮影)
16	写真	三菱石油川崎工場の被害
17	写真	昭和電工硝酸工場の被害
18	写真	日本鑄造白石工場の被害
19	写真	撃墜されたB29の残がい
20	写真	六郷橋付近から多摩川河口方面をみる
21	写真	京浜川崎駅付近の焼け跡
22	写真	六郷橋付近から東海道線鉄橋方面をみる
23	写真	川崎市役所付近の焼け跡(現在の平和通り)
24	写真	六郷橋付近から川崎市役所方面をみる
25	写真	渡田1丁目から川崎市役所・宮前国民学校方面をみる
26	写真	被災後の富士見公園付近(左上の橋梁は六郷橋、中央下の屋根にPWとあるのは俘虜収容所 米軍撮影)
27	写真	市内登戸の長念寺に疎開した小田国民学校児童の朝礼
28	写真	市内登戸の長念寺に疎開した小田国民学校の児童たち(御本尊への感謝の祈り)
29	写真	皇紀2600年祝賀行進(川崎市役所前)

- 【注】 1 題名は、「川崎空襲・戦災の記録」に基づくが、無いものはAセットの例による。
 2 京浜川崎駅は現在京急川崎駅に改称されているが当時の名称を使用。
 3 俘虜収容所の名称は、川崎市史にも使用。
- 【参考】 「川崎空襲戦災の記録」、「目で見る川崎市の100年」、「川崎市史 通史編 4上」

日本非核宣言自治体協議会パネル・23枚組

パネルNo	種別	題名
1	解説	日本非核宣言自治体協議会ってなに？ / 協議会の主な活動内容 / ミニミニ原爆展の開催について
2	解説	日本非核宣言自治体協議会(非核平和宣言実施率と協議会加入状況(都道府県別))
3	解説	広島・長崎の被災状況 / 原子爆弾とは / 長崎に投下された原爆と広島に投下された原爆の違い
4	写真	きのこ雲(広島)
5	写真	広島県商工経済会の屋上から見た広島県産業奨励館と爆心地付近(広島)
6	写真	中国軍管区司令部防空作戦室の入口(広島)
7	写真	山口町付近の建物の屋上から、南を望む(広島)
8	写真	爆心地から北方を望む(広島)
9	写真	日本赤十字社広島支部(広島)
10	写真	日本銀行広島支店の内部(広島)
11	写真	溶けた一升びん(広島)
12	写真	弁当箱(広島)
13	写真	8時15分で止まった時計(広島)
14	写真	きのこ雲(長崎)
15	写真	浦上天主堂(長崎)
16	写真	浦上天主堂(長崎)
17	写真	城山国民学校(長崎)
18	写真	新興善国民学校救護所(長崎)
19	写真	山王神社(長崎)
20	写真	国防服(長崎)
21	写真	柱時計(長崎)
22	写真	柱時計(長崎)
23	写真	背中一面に熱傷を受けた少年(長崎)

原爆被爆パネル(29枚組)

パネルNo	種別	題名
1	写真	燃えつきた広島
2	写真	燃えつきた広島
3	写真	直後。御幸橋の西詰
4	写真	太田川土手のテントに収容された被爆した重症の兵隊
	写真	ひん死の被爆者たちがぎっしり収容された広島日赤病院
5	写真	被爆から数日後、船舶練習臨時救護所から戻る親子
6	写真	被爆した子ども
7	写真	長崎 被爆地の風景
8	写真	長崎 被爆地の風景 華街一帯を望む
9	写真	消息を訪ねて被爆地に入ってきた人の列が続いた
10	写真	長崎 松山町付近・爆心地から南500m以内から南方を望む
11	写真	ケロイドに苦しむ被爆者
12	写真	ケロイドに苦しむ被爆者
13	写真	熱線で全身焼けただれた人々の多くは、虫の息ながら臨時救護所に収容された
14	写真	臨時救護所で死とたたかう老婆
15	写真	治療らしい治療も受けられないままに、収容されたが……
	写真	顔や手に熱傷を受けた主婦、やけどの他、頭部打撲の男性
16	写真	5～6キロの道を長崎の街からリヤカーで、やっと道ノ尾までたどり着いた少年
17	写真	翌朝7時前後。両親を失った兄弟
18	写真	背中の中熱傷
19	写真	救護にあたった海軍病院看護婦たちは、負傷者たちのやけどの手当てに、汗をぬぐうひとまもなかった
20	写真	負傷者の治療中
21	写真	放置された被爆者
22	写真	手当での順番を待つ母は放心状態ながら、傷ついた子どもに乳を含ませていた。
23	写真	通行章と書いた市の連絡員が通りかかって、水筒を手渡すとそれぞれが回し飲みした。
24	写真	自分で飲む力さえ失った負傷のひどい婦人には、これが末期の水となった。
25	写真	完全に破壊された市内電車の車台の上に、長い座席とともに兵隊と婦人だけが取り残されて死んでいた。
26	写真	爆死した子ども
27	写真	爆風圧による死・放置された被爆死体
28	写真	広島郊外で発掘された被爆者の白骨
29	写真	建物疎開の作業中に被爆、白内障で1977年失明

- 【注】 1 このパネルは、川崎市折鶴の会から平成18年6月22日に寄贈されたものです。
 2 パネルは、段ボール箱2箱に分けて保管しています。

原爆と人間パネル(40枚組)

パネルNo	種別	題名
1	タイトル	原爆と人間展(タイトル)
2	写真	広島・原爆ドーム
3	写真	長崎・浦上天主堂の天使像
4	写真	たった一人の生き残り
5	写真	死の灰で遊んだ子どもたち
6	写真	アメリカの被爆兵士
7	写真	俺は死ねない
8	写真	原爆は人間の頭上に
9	絵	火の海
10	写真	涙に曇るファインダー
11	絵	地獄
12	絵	母の声を背に
13	絵	黒い雨
14	写真	殺してくれ
15	絵	川
16	絵	水を求めて
17	絵	すがりつく手
18	写真	爆風
19	写真	うつろ
20	絵	狂人のように
21	写真	くる日もくる日も
22	写真	墓の中身は空っぽじゃ
23	写真	どん底の苦しみ
24	写真	入退院の繰り返し
25	写真	被爆者はモルモットか
26	写真	原爆孤児
27	写真	こころの傷
28	証言	なぜ、原爆は投下されたか
29	写真	韓国被爆者の叫び
30	写真	原爆報道・言論の弾圧
31	写真	水爆はもう使わないで
32	写真	生きていてよかった
33	写真	日本被団協の結成
34	写真	すわり込み
35	写真	被爆者は訴える
36	写真	見てください
37	写真	核の恐怖－沖縄
38	写真	ホントに本当だったんだ
39	写真	たたかう被爆者
40	よびかけ文	よびかけ(文)

【注】 パネルは、段ボール箱2箱(パネルNo1～No20と、No21～No40)に分けて保管しています。

広島・長崎被爆写真パネル(52枚組)

パネルNo	種別	題名
1	アピール文	核兵器のない世界を
2	写真	広島・長崎への原爆投下(左右)
3	写真	原子雲(広島)
4	写真	御幸橋(広島)
5	写真	応急手当(広島)
6	写真	広島南街
7	写真	翌日の爆心地付近(長崎)
8	写真	焼死した少年(長崎)
9	写真	背なか一面の熱傷(広島)
10	写真	動員学徒の女学生(広島)
11	写真	母と子(長崎)
12	写真	市内電車と乗客(長崎)
13	写真	救援を待つ(長崎)
14	写真	手当をまつ母子(長崎)
15	写真	救援トラックの上で(広島)
16	写真	救援(長崎)
17	写真	茶毘(長崎) 縮景園(広島)
18	写真	原爆ドーム(広島) 浦上天主堂(長崎)
19	写真	燃えつき壊滅した、広島・長崎
20	写真	山里町<平野町>の丘から爆心地とその北方一帯を望む
21	写真	新興善国民学校屋上から、長崎駅東方繁華街一帯を望む
22	写真	相生橋(広島)
23	写真	木造家屋(広島)
24	写真	浦上天主堂(長崎)
25	写真	熱線(長崎) 人影(広島)
26	写真	熱線(広島)
27	写真	放射線(広島)
28	写真	救援(長崎)
29	写真	作業服(長崎)
30	写真	熱線を受けた竹(広島・長崎)
31	写真	火鉢(長崎)
32	写真	瓦(長崎)
33	写真	びん(長崎)
34	写真	ガラスと手の骨(長崎)
35	写真	皮膚と生爪(広島)
36	写真	すっかり売れなくなった魚
37	写真	23人全員が放射能で汚染
38	写真	久保山愛吉さんの死
39	写真	原水爆禁止署名と第1回原水爆禁止世界大会
40	写真	国民平和大行進
41	写真	生きているうち被爆者援護法を
42	写真	被爆者の描いた絵
43	写真	被爆者の描いた絵
44	写真	被爆者の描いた絵
45	写真	地球上に5万発の核兵器が
46	写真	日本と核戦争の前線基地ーアジア・太平洋の非核化を
47	写真	非核三原則がふみにじられている
48	写真	核戦争をたたかう米軍の戦闘に参加する自衛隊
49	写真	核戦争のための通信網
50	写真	世界で10億をめざす「ヒロシマ・ナガサキからのアピール」署名運動
51	写真	つくろう反核の国際共同戦線
52	写真	ヒロシマ・ナガサキは世界によびかける 核戦争ゆるすな、核兵器なくそう

【注】 パネルは、段ボール箱2箱に分けて保管しています。

「沖縄戦とひめゆり学徒」パネル(31枚組)

パネルNo	テーマ	題名
1	入り口	沖縄戦とひめゆり学徒
2	序章	「戦場」への動員240人
3	第1章 ひめゆりの 青春	ひめゆりの青春
4		朝礼・宮城遥拝
5		通学路でもあった「ひめゆり橋」
6		授業風景
7		クラブ活動・行事
8		最後のセーラー服
9		寮での勉強の様子
10	第2章 戦時体制 (軍事化され ていく学園)	戦時体制
11		強まる軍事色(食糧増産、17里行軍、防火訓練、避難訓練)
12		沖縄戦間近の様々な訓練
13		射撃訓練を行う中学校の生徒たち
14		沖縄戦直前の集合写真
15	第3章 アジア・太平 洋戦争と沖 縄	アジア・太平洋戦争と沖縄(1940-1945 日本軍の侵攻)
16		(1942-1945 米軍の反攻)
17		沖縄戦の始まり
18		南風原(はえばる)・沖縄陸軍病院
19		地獄と化した戦場
20		瓦礫となった首里城跡と弁ヶ岳周辺
21		破壊された首里教会
22		住民の死
23	第4章 南部への撤 退	南部への撤退
24		追いつめられた日本軍と住民
25		投降を呼びかける米軍
26		投降・救出される住民
27	第5章 収容(沖縄 戦の終わり)	収容
28		収容所生活の始まり
29		収容所での授業
30		ひめゆりの塔(1946年)
31		1989年ひめゆり平和祈念資料館開館

【注】 このパネルは、平成23年4月「ひめゆり平和祈念資料館」から寄贈されたものです。

平和市長会(Mayors for Peace)パネル
ヒロシマ・ナガサキ被爆の実相等に関するポスター展パネル(19枚組)

No		題名
1	挨拶文	広島市長・長崎市長メッセージ
2	写真	人類への警鐘
3	写真	原子爆弾により破壊された街
4	絵	悲惨な被害の状況①
5	絵	悲惨な被害の状況②
6	写真	熱線による被害①
7	絵・写真	熱線による被害②
8	写真	爆風による被害① -建物への被害-
9	絵	爆風による被害① -人への被害-
10	絵・写真	高熱火災による被害
11	写真	放射線による障害 -急性被害-
12	写真	後障害①
13	写真	後障害②
14	絵	核兵器は「絶対悪」 -核兵器が人類にもたらす甚大な被害-
15	写真・図	平和市長会議 -市民を守る都市ネットワーク-
16	写真	2020ビジョン(核兵器廃絶のため緊急行動)の展開
17	写真	現在の広島の様子
18	写真	現在の長崎の様子
19	図	核兵器の現状

※平成24年平和市長会から寄贈を受けた。

平成23年(2011年)11月の第8回平和市長会議理事会及び平成24年(2012年)1月の第1回平和市長会議国内加盟都市会議で、平和市長会議の加盟都市が5,000を突破したことを記念し、新たに原爆被害の実相等に関するポスターを作成し、平成24年(2012年)5月のNPT再検討会議第1回準備委員会の開催に合わせてオーストリア・ウィーン市においてポスター展を開催するとともに、8月6日や9日を含む一定期間、全加盟都市をあげてポスター展を開催することが決定された。